



学園の展望

平成元年頃をピークにして少子化の影響から学生生徒数が急減してきました。

ピーク時に比しておよそ四十パーセン

トの減少になっています。教育の氷河期といわれるこの時代に、聖隸学園では短期大学を大学に切り替え、看護学部に加えて、社会福祉学部、リハビリテーション学部を増設し、それぞれの学部に大学院修士課程を開設してきました。そして二〇〇八年度からは博士後期課程が開設されました。貫して社会的ニーズの高い学部、助けを必要としている人間を対象とした学部を開設してきました。そして教育と研究の充実のために大学院を開設してきました。

聖隸学園の存在意味は優れた専門職を養成し、地域社会に送り出して地域社会の人々、特に困難な状況にある人に幸せになつてもらうために存在していると考えています。病気や障害や高齢そして事故などで人生の困難な時を過ごさざるを得なくなつた人を支え、寄り添つていく専門職を養成するためには最高の教育と

研究のできる大学が必要だと考えてきたからです。この考え方で間違いなかつたと私は確信しています。

二〇〇八年四月から社会福祉学部にこども教育福祉学科が開設されます。この学科では保育士と幼稚園教諭が養成されます。近い将来に、実習施設としての認定こども園の開設を考えています。幼稚園も保育園も幼児の教育をしていますが、幼稚園の管轄は文部科学省で、保育園は厚生労働省です。それにも歴史も考え方も違うようです。幼保一元化が言われて久しいのですが、静岡県には認定こども園がいまだに一つも出来ていよいよです。認定こども園はこれから時代のニーズのように考えますので積極的に取り組んでいきたいと考えます。

二〇〇九年四月には聖隸クリスマス・中学校を開設する予定です。先ず私たちが経験していない中学校の教育を立ち上げ、確立し、完成年度に達したところで中高六カ年の教育を構築したいと考えます。その後に二十一世紀のグローバル

発行者
学校法人聖隸学園
聖隸クリストファー大学・大学院
聖隸クリストファー高等学校
〒433-8558
浜松市北区三方原町3453
電話 053(436)5311
<http://www.seirei.ac.jp>

学校法人聖隸学園 理事長 長谷川 了



聖書のことば

聖隸学園宗教主任

鈴木 崇巨

「新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れるものだ。」
(マタイ福音書九・一七)

日本では、昔、太い竹を利用して旅の水筒を作りました。イエス・キリストの時代、旅の水筒は皮袋を用いました。羊の首を切り落とし、そこから内臓や肉を取り出しました。

それをきれいに洗い、日陰で干しました。四本の足は互いに結びました。首の部分が皮袋の口になり、そこから水を飲みました。とても丈夫な水筒です。

旅から帰ると、家の中のどこかにぶらさげて乾かしておきました。何度も使っていると皮が劣化してひからびてきます。それが古い皮袋です。そこに搾りたての新しいぶどう酒を入れておくと、発酵して皮袋を破ります。イエスの時代では、よく経験することでした。

イエスの教えは、新しいぶどう酒のよう�습니다。それは天から来るものですが、それを受け入れようとするなら、私たちには固定観念を捨て、純真な子供のような心にならなければなりません。それがこの聖句の教えです。

わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。
(マタイ福音書一〇・四二)

大学院博士後期課程の設置が意味するもの

学長 小島 操子

近年、医療が高度・複雑に進展し、又人々の価値観やニーズが複雑・多様化する中で、医療等における患者・利用者中心の多職種からなるチーム・アプローチ（連携・協働）が不可欠になっています。本学は、保健医療福祉に関する看護・リハビリテーション・社会福祉の三学部からなり、多職種連携・協働についての絶好の学び舎であります。

本学では、このメリットを生かして、本年四月より、これら三つの学問・専門分野を総合するされました。博士後期課程は、学問を修め専門性を追究する大学において、教育・研究の充実をはかるために必須であり、大学の理念、目的にそつてそれぞれの学問分野の完成像の追究を示すと考えます。

本学の保健医療福祉における専門職業人育成の目的は、前記のような博士後期課程が開設された事で、学士・修士・博士後期課程で段階的に明確に示す事が出来るでしょう。つまり、本学の専門職業人育成は、建学の精神である生命の尊厳と隣人愛を基盤に、学士課程では、それぞれの専門分野について学修すると共に、他職種（他学部）の専門性を理解し、尊重して、連携・協働の意義や重要性を身につけた専門職業人（ジェネラ

大学院保健科学研究科（博士後期課程）のカリキュラム

保健科学研究科 研究科長 宮前 珠子

大学院

リスト）の育成が強調されるでしょう。そして、大学院修士課程では、それぞれの専門分野を深め、多職種連携・協働の意義・効果を高めるために、専門性・独自性を發揮できる高度専門職業人（スペシャリスト）の育成が推進され、博士後期課程では、それぞれの専門分野を更に深め研究能力を高めると共に、専門職種間の連携・協働を率先して円滑かつ効果的に推進するために、リーダーシップ・マネジメント能力を発揮できる高度専門職業人の育成が期待されます。

大学として、保健医療福祉に関する専門職業人育成の全体像を示す事は、受験生・入学生に対して将来展望を抱かせ、専門職に強く動機づけられた、アイデンティティのしっかりした専門職業人を育成することにつながるといえるでしょう。

本学のようないくつかの看護・リハビリテーション・社会福祉の三分野からなる博士後期課程は、全国的にも少なく、静岡県また中部東海地区で初めてです。本研究科は、これらの分野における学術実践教育研究の中核的専門機関として、静岡県はじめ、近隣の保健医療福祉における水準の向上と人材の育成、資質の向上をはかるとともに、サービスを受ける人々の健康と幸せのため、又これらの分野の学問や専門職の発展のために貢献する事が期待されます。

		単位数																									
		必修	選択																								
基盤科目		2	1																								
インタープロフェッショナルワーク特講 インターパロフェッショナルワーク演習 指導・管理的リーダーシップ特講 保健科学研究方法特講Ⅰ 保健科学研究方法特講Ⅱ 保健科学英語特講		2 2 2 2 2 2	2 2 2 2 2 2																								
専門科目		2	2																								
<table border="1"> <tr> <td>看護管理学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>看護技術学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地域看護学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>老年看護学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>環境・生活支援看護学演習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>環境・生活支援看護学特別研究</td> <td>6</td> </tr> </table>		看護管理学特講	2	看護技術学特講	2	地域看護学特講	2	老年看護学特講	2	環境・生活支援看護学演習	1	環境・生活支援看護学特別研究	6	2 2 2 2 2 1 6	2 2 2 2 2 2 1 6												
看護管理学特講	2																										
看護技術学特講	2																										
地域看護学特講	2																										
老年看護学特講	2																										
環境・生活支援看護学演習	1																										
環境・生活支援看護学特別研究	6																										
看護学分野		2	2																								
<table border="1"> <tr> <td>がん看護学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>成人看護学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>母子看護学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>療養支援看護学演習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>療養支援看護学特別研究</td> <td>6</td> </tr> </table>		がん看護学特講	2	成人看護学特講	2	母子看護学特講	2	療養支援看護学演習	1	療養支援看護学特別研究	6	2 2 2 2 1 6	2 2 2 2 2 1 6														
がん看護学特講	2																										
成人看護学特講	2																										
母子看護学特講	2																										
療養支援看護学演習	1																										
療養支援看護学特別研究	6																										
リハビリテーション科学分野		2	2																								
<table border="1"> <tr> <td>神経系理学療法学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>内部障害理学療法学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>理学療法科学演習</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>理学療法科学特別研究</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>作業科学特講</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>身体障害作業療法開発学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地域能作業療法開発学特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>作業療法科学演習</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>作業療法科学特別研究</td> <td>1</td> </tr> </table>		神経系理学療法学特講	2	内部障害理学療法学特講	2	理学療法科学演習	2	理学療法科学特別研究	1	作業科学特講	6	身体障害作業療法開発学特講	2	地域能作業療法開発学特講	2	作業療法科学演習	2	作業療法科学特別研究	1	2 2 2 2 1 6	2 2 2 2 1 6						
神経系理学療法学特講	2																										
内部障害理学療法学特講	2																										
理学療法科学演習	2																										
理学療法科学特別研究	1																										
作業科学特講	6																										
身体障害作業療法開発学特講	2																										
地域能作業療法開発学特講	2																										
作業療法科学演習	2																										
作業療法科学特別研究	1																										
社会福祉学分野		2	2																								
<table border="1"> <tr> <td>社会福祉原論特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>社会福祉原論演習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>社会福祉原論特別研究</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>在宅福祉特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>在宅福祉演習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>社会福祉特別研究</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>地域福祉システム特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>地域福祉システム演習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>地域福祉システム特別研究</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>生活環境特講</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>生活環境演習</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>生活環境特別研究</td> <td>6</td> </tr> </table>		社会福祉原論特講	2	社会福祉原論演習	1	社会福祉原論特別研究	6	在宅福祉特講	2	在宅福祉演習	1	社会福祉特別研究	6	地域福祉システム特講	2	地域福祉システム演習	1	地域福祉システム特別研究	6	生活環境特講	2	生活環境演習	1	生活環境特別研究	6	2 1 6	2 1 6
社会福祉原論特講	2																										
社会福祉原論演習	1																										
社会福祉原論特別研究	6																										
在宅福祉特講	2																										
在宅福祉演習	1																										
社会福祉特別研究	6																										
地域福祉システム特講	2																										
地域福祉システム演習	1																										
地域福祉システム特別研究	6																										
生活環境特講	2																										
生活環境演習	1																										
生活環境特別研究	6																										

今日の保健医療福祉分野における多くの問題が、専門職相互の理解と連携の不足がもとになって起こっていることが少なくありません。本課程では、専門職連携（インタープロフェッショナルワーク（IPW））をカリキュラムの中心に据え、看護学、リハビリテーション科学、社会福祉学の三領域からなる本学の特徴を最大限に生かして、多職種間の連携と調整にリーダーシップを發揮できる高度専門職業人の育成を目指しています。

カリキュラムは表に示す通りで、大きく基盤科目と専門科目に分かれます。基盤科

目では、インター・プロフェッショナルワーク特講一単位とインター・プロフェッショナルワーク演習一単位が必修になつております。専門科目は各自が選択した領域の特講二単位、演習一単位、および特別研究六単位の合計九単位以上を履修することになります。博士後期課程の修了要件は、三年以上在学し、授業科目で一四単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格することとなります。皆様のご理解とご支援をお願い致します。

「こども教育福祉学科の目指すもの」

社会福祉学部長 佐々木 敏明



聖隸クリリストファー大学社会福祉学部では、一〇〇八年四月から、「社会福祉士」の受験資格に加え、「保育士」と「幼稚園教諭」の資格を取得することができる「こども教育福祉学科」がスタートいたしました。

社会福祉学部が「こども教育福祉学科」を開設した目的は、家庭形態や子どもを取り巻く環境の変化が、子育て不安や児童虐待などを生み出す土壤について、保育園や幼稚園などでお世話をすると教育をするだけでは、子どもが安全で健やかに発達し、学ぶことが困難になつたという現状があります。

そのため、保育士や幼稚園教諭も、親・家族に対する相談支援や安心して子育てができる地域づくりが担える。また、保健医療との連携に加え、卒園後を見据えた教育と福祉の連携・協働できる力量が求められるようになつてきました。

二〇〇七年四月から、保育園と幼稚園の両方の長所を生かした保育と教育の総合的な提供と、

「こども教育福祉学科」では、このような社会の要請に応える人材を育成するために、「保育士」と「幼稚園教諭」の資格にかかる科目に加え、地域づくり、生活支援の要となる社会福祉士の資格にかかる科目、さらには「親支援方法論」「地域支援方法論」など独自の専門科目を配置しました。

あわせて、資格を取るだけではなく、四年間の大学生活のなかで、総合的な企画力、判断力、リーダーシップを身につけてもらい、将来は、主任保育士、園長などの管理運営面や子育て支援ネットワークづくりなど、地域での指導的役割を担うための力をつけてほしいと考えています。

ところで、障がい児・者の相談支援のなかで、兄弟や子どものしつけの悩みに直面したり、親の介護の相談のなかに、子どもの教育の問題が複雑に絡み合つたりしていることがままあります。

「こども教育福祉学科」のもうひとつのおねらいは、社会福祉学部に子どもの教育や福祉にかかる専門の教員が加わることによって、社会福祉学部の学生がどの学科に所属しても生じる支援を総合的に学べるようにすることです。

適切な規模の子ども集団での育ちの場の確保を進めようと、「認定こども園」の設置が始まりましたが、このような動きも、そのひとつの表れといえましょう。

「認定こども園」は、保育園と幼稚園を単に一緒にすればよいわけではありません。その土台には、子育て力や教育力を高めるための地域づくりや生活支援が欠かせないのであります。

聖隸クリリストファー大学社会福祉学部は「こども教育福祉学科」の開設を契機に、社会福祉の総合大学としての教育力、研究力をレベルアップし、地域社会、とくに静岡県西部の福祉水準の向上に貢献していく決意を新たにしています。今後とも皆様の温かいご支援をお願いいたします。

「こども教育福祉学科」学科主任就任にあたつて



学科主任 小川 恵子

昨年四月、聖隸クリリストファー大学に赴任をし、一年間こども教育福祉学科開設に向けての準備をしてまいりましたが、この間、多くの方々の御協力・御支援をいただき開設に至ることができました。新設学科の主任として就任するにあたり、とりわけ、本学が歩んできた歴史の一端を担う重責を感じざるを得ません。

従来子どもへの養育責任は、家庭(親)にありました。しかし、現在は家庭が地域社会で児童養育の責任を果たし得る様に家庭に対して支援を行い、児童の健全な成長・発達を促進することが国や地方公共団体に求められてきています。社会福祉学部に本学科を開設する目的は、そういう時代のニーズに対応できる専門職者の養成にあります。保育と教育の総合的な提供、親・家族への支援、地域環境づくりの担い手等、子どもに関わる専門職者に期待される役割は今後ますます広がりをみせるものと思います。

保育士・幼稚園教諭・社会福祉士国家試験受験の資格取得に向けた四年間の学びのなかで、感性を磨き、価値観・倫理観を身につけ、濃やかなこころを持ち合わせた学生が育つよう、教員一丸となつて取り組みたいと願っております。今後とも皆様方の温かいご支援を宜しくお願い致します。

学士課程における 看護学教育が目指すもの



看護学部長 渡邊 順子

二〇〇四年十月、前任校（名古屋大学）で一〇年余り大学教員として勤めた後、聖隸クリリストファー大学看護学部教授に着任しました。あれから三年、看護学部長という重責を拝命したことは名誉なことと感謝したいと思います。しかし、いま大学（学士課程）における看護基礎教育は大きな変革を求められており、その役割の責務は重大です。医療が高度に複雑にそして専門分化することは、看護も同様に進化することが求められます。単に看護職の資格が取れ、就職難には程遠い専門職ともてはやされ、古くは「白衣の天使」と羨望されたのはいつの時代だったかと思うほど、看護の現状は厳しい状況といえます。

加えて、一九九〇年代初頭から始まつた大学改革の激流は衰えることを知らず、高等教育の質の向上を求めて、独自に大学における看護基礎教育を創りあげていかなければなりません。さらに、二〇〇八年に看護職の教育基準法ともいべき「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」が十二年ぶりに大きく改正され、二〇〇九年度入学生から適用されるため、昨年夏より看護学部のカリキュラム改訂作業を順次進めています。改正ポイントは、「臨床実践力の強化」です。四年間という限られた時間で、膨大な専門知識と専門技術を教育・教授することは困難を極めます。しかし、卒業時における看護専門職としての知識と技術の完成度すなわち臨床実践力を担保することは、専門高等教育の責務といえます。その方略を具現化するために、学生と教員の資質向上は不可欠です。それらもはや個々人の努力義務ではなく、学部組織全体に課せられた必至課題といえましょう。

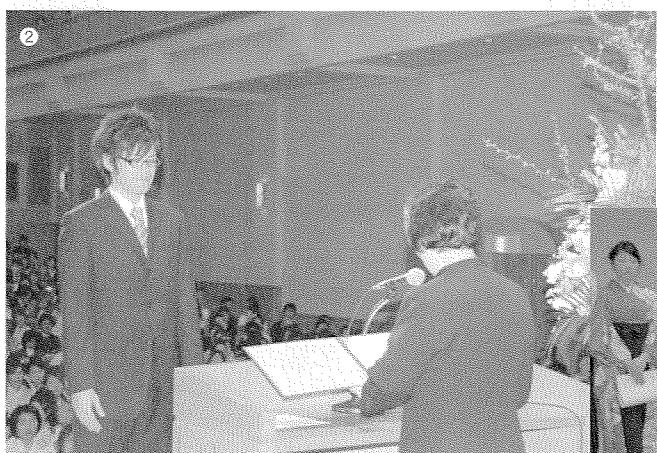
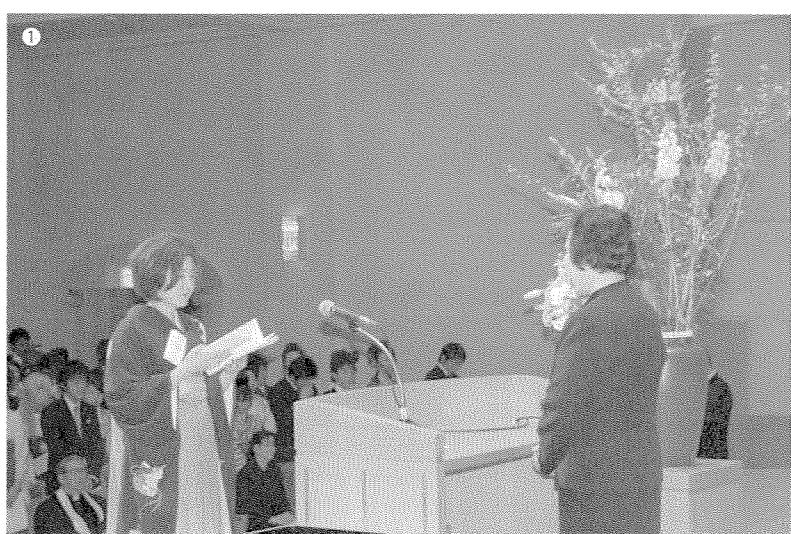
「白衣の天使」が、「白衣の戦士」となつて人々の健康を守ることができます。「看護実践力」を教育・研究の側面から強化していくことを考えます。みなさまのご支援・ご協力を心よりお願い申し上げます。

卒業生を送りだすにあたつて

リハビリテーション学部長 小川 恵子

一〇〇四年四月に開設されたりハビリテーション学部もようやく四年目を向かえ、今春三月には卒業生を送りだしました。理学療法学専攻、作業療法学専攻、言語聴覚学専攻合わせて定員八〇名という小世帯ですので、わりと一人ひとりに目が届いた教育が出来ております。

この分野の大学も年々増えてはおりますが、看護学部、社会福祉学部とリハビリテーション学部というリハビリテーション医療を担う主要なチームメンバーが揃つた大学は少なく、学生が三学部一緒に学んだり、施設、高校、保育園など地域とのつながりの中で実践を通して自然に学ぶものも日々あると思われます。



①卒業生を代表してことばをのべる村松愛実さん（言語聴覚学専攻）。

②リハビリテーション学部を代表して卒業証書を授与される大杉紘徳さん（理学療法学専攻）。

③式終了後卒業生に卒業証書を小川学部長より授与。

サークル活動をしたりと、将来チームワークを実践する上で良い環境にあるものだと思います。

しかも聖隸グループという大きな組織をバックに備え、周辺の病院、

一一〇〇七年度卒業生の進路先内定状況について

就職センター

就職センターでは、学生の就職・進学活動支援およびキャリア支援を行っています。特に二〇〇七年度は二〇〇四年度の看護学部定員増後初の卒業生、リハビリテーション学部一期生を社会に送り出す年度となりましたので、従来以上に学生個々に対するきめ細かい支援、就職先へのPR、センター職員と教員や就職先との連携に努めました。支援内容としては、求人等の紹介の他に、病院・施設で働いている専門職者や採用担当者を大学に招いて行う学内病院・施設説明会の開催、一・三年次生には卒業年次実施や社会人として必要なマナー・礼儀などを学ぶキャリアガイダンス等を実施しました。

就職センターでは、学生の希望に沿った進路の実現を目指して、引き続き教職員が一丸となつて就職支援体制を強化していくたいと思っています。

二〇〇七年度卒業生の主な就職・進学内定先は下記の通りです。

◇2008年3月17日現在内定状況◇

看護学部・助産学専攻科

看護師	聖隸浜松病院、聖隸三方原病院、聖隸沼津病院、聖隸横浜病院、聖隸佐倉市民病院、共立湖西総合病院、磐田市立総合病院、掛川市立総合病院、菊川市立総合病院、静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡県立こども病院、静岡県立がんセンター、豊橋市民病院、豊川市民病院、名古屋大学医学部附属病院、藤田保健衛生大学病院、トヨタ記念病院、国立成育医療センター、日本赤十字社医療センター、虎の門病院 他
保健師	聖隸保健事業部、浜松市、湖西市、牧ノ原市、愛知県三好町、神奈川県川崎市
助産師	聖隸浜松病院、聖隸沼津病院、聖隸横浜病院、県西部浜松医療センター、磐田市立総合病院、菊川市立総合病院、静岡県立総合病院、名古屋第二赤十字病院 他
進学先	聖隸クリストファー大学助産学専攻科、浜松医科大学助産学専攻科 他

社会福祉学部

福祉	聖隸福祉事業団、十字の園、小羊学園、日本老人福祉財団、天竜厚生会、島田福祉の杜、県民共済きらら藤枝、楽寿会、静岡市社会福祉協議会、富士厚生会 他
医療	はまなこ病院、藤枝駿府病院、沼津中央病院、鷹岡病院、順天堂大学静岡病院 他
企業	東日本旅客鉄道、第三銀行、ワタミの介護、ヤマシタコーポレーション、協和医科器械、とびあ浜松農業協同組合、トヨタカローラ東海、静岡日産自動車 他
公務員	静岡県、静岡県警、浜松市、静岡市 他
進学先	聖隸クリストファー大学大学院社会福祉学研究科、富士常葉大学保育学部保育学科 他

リハビリテーション学部

理学療法学専攻	聖隸福祉事業団、十字の園、引佐赤十字病院、はまなこ病院、協立十全病院、浜松南病院、磐南中央病院、掛川北病院、静清リハビリテーション病院 他
作業療法学専攻	聖隸福祉事業団、十字の園、和恵会、神経科浜松病院、介護老人保健施設葵の里、伊豆医療福祉センター、河北リハビリテーション病院、日産厚生会玉川病院 他
言語聴覚学専攻	聖隸福祉事業団、国立病院機構天竜病院、常葉リハビリテーション病院、東京湾岸リハビリテーション病院、北大阪警察病院 他
進学先	聖隸クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科

学 部	卒業修了者(人)	就職内定者(人)	就職率(%)	進学予定者(人)	その他(人)
看護学部	153(2)	145(2)	94.8	8	0
助産学専攻科	10	10	100	0	0
社会福祉学部	118(1)	105	89.0	3	10
リハビリテーション学部	73	66	90.4	※7	7
合 計	354(3)	326(2)	92.1	18	17

()内の数字:2007年9月卒業者。※の数字:働きながら大学院進学。

一一〇〇七年度を終わつて

■第四十回卒業式

日ごろは、聖隸クリストファー高等学校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜りありがとうございます。

さて、去る三月一日(土)、第四十回卒業式が挙行され四十期生二八三名が卒立つていきました。四十期生は文武両面にわたつて大いに活躍してくれました。とりわけ三年間皆勤が四名、精勤が四名、計八一名(卒業生の約一九%)という数字は素晴らしいです。本校躍進の雰囲気づくりをしてくれました。式は厳格な雰囲気の中に終わりましたが、在校生代表の送辞卒業生代表の答辭が列席者全員に深い感動を与えてくれました。二八三名のこれから活躍に期待します。

■「やればできる」という自信

二〇〇七年度は、生徒・教職員とともに「やればできる」という自信を掴んだ一年であったように思います。二〇〇七年度の学校運営のキーワードは「充実」と「連携」でした。研修や話し合いを積み重ねることにより、教科指導の充実、小論文指導の充実、進路指導の充実、生徒指導の充実、学級・学年経営の充実等に積極的に取り組んで参りました。教員の指導力の向上こそが「魅力ある学校」づくりの大前提であると考えています。その成果は欠席、遅刻の減少、授業改善、学ぶ姿勢の確立、自発的学習の習慣付け等に徐々に表れてきているように思っています。進学クラスから静岡県立大学に二名の合格者を出したことで、また聖隸クリストファー大学の合格者が大幅に増加し、看護学部に

総合クラスから初の合格者を出したことなどは、校内に「やればできる」という自信を生み出しています。「連携」の取り組みについては下の「高大連携」の欄で触れさせていただきます。

■部活動が元気

様々な部活動が活性化してきました。特筆すべきは、男子バレーボール部が総体、春高バレーと連続して県優勝し、全国大会出場という大活躍をしてくれたことです。野球部の夏の県大会ベスト8も見事でした。キビキビとした試合運びで次々と強豪校を破つての快進撃は、応援する者に深い感動と体感を与えてくれました。女子ソフト部、女子サッカー部も活発化しこれからが楽しめます。この他にも運動部、文化部を問わず多くの部活動が活発になつてきました。今後の課題は文化部のいっそうの活性化であると考えています。

■終わりに

二〇〇八年度は長い歴史と伝統を持つ「国際交流教育」の見直しと活用を図り、併せて英語教育の充実に力を入れたいと考えています。本年度も温かいご理解とご支援をお願いします。

菰田 勇
聖隸クリストファー高等学校校長

2007年度高大連携プログラム聖隸P(プロジェクト)クラス

聖隸プロジェクト委員長 竹本義恵

「聖隸Pクラス」は高大連携のプログラムの一環として、2006年から講義を開始しました。

このクラスには1、2年生の看護、福祉、リハビリテーションの分野への進学を希望する生徒たちが参加しています。この分野に興味があつても、漠然としたイメージしか持っていないことが多い生徒にとって、大学では何を学び、どんな内容の仕事をするのかを知ることは重要なことです。「聖隸Pクラス」では、それぞれの分野を専門としている聖隸クリストファー大学の教員が、高校生に向けて分かりやすく講義を行っています。

2007年度は、理学療法、作業療法、言語聴覚、看護、社会福祉士、精神保健福祉士についての講義や、リハビリテーション学部で学ぶ先輩の話を聞きました。また、2008年度、社会福祉学部に新設される「こども教育福祉学科」について、どんなことを学ぶのか、そして保育に携わ

る専門家の役割の大きさや活動分野の広さについて知ることができます。この講義には3年生の希望者も参加し、熱心に耳を傾け、質問しました。また、2月に行われたクラスでは、最後のまとめとして、2年生が発表を行い、それに対して大学の教員がコメントをしました。

2007年度は36名の生徒が聖隸クリストファー大学に合格し、その多くが「聖隸Pクラス」の授業を受講した生徒でした。それぞれの生徒が、これから学びの中で、ここを得たものを大いに役立てゆくと確信しています。



日付	講師	内 容
4月16日	聖隸プロジェクト説明会	聖隸Pクラスの説明、登録用紙配布、看護体験申込用紙配布
5月23日	小川恵子先生(聖隸クリストファー大学リハビリテーション学部)	大学での看護、福祉、リハビリテーションを学ぶ意味
6月18日	小川恭子先生(聖隸クリストファー大学社会福祉学部)	福祉について。新設こども教育福祉学科について
7月9日	新宮尚人先生(聖隸クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学専攻)	リハビリテーションについて(作業療法士、理学療法士)
7月29日	聖隸クリストファー大学	保護者・生徒対象大学説明会・見学会
9月10日	藤田綾香さん(聖隸クリストファー大学リハビリテーション学部 学生)	高校の卒業生から大学での「学び」についてのお話
10月22日	佐々木敏明先生(聖隸クリストファー大学社会福祉学部)	福祉について(介護福祉士、社会福祉士、精神保健福祉士)
11月19日	中野照代先生(聖隸クリストファー大学看護学部)	看護について
12月17日	長谷川賢一先生(聖隸クリストファー大学リハビリテーション学部言語聴覚学専攻)	リハビリテーションについて(言語聴覚士)
2月18日	志村健一先生(聖隸クリストファー大学社会福祉学部)	2年生の研究発表についてのコメントをいただく

◆ブラジル希望の家研修生受け入れ報告◆

ブラジルサンパウロ市にある「希望の家」(知的障がい者援護施設)から日系二世の内村ペアトリスみえさん(心理療法士)と日系三世の竹中サンドラちえみさん(理学療法士)が来日し、2007年4月16日から約9ヶ月間、聖隸学園はじめ聖隸グループの各施設での研修を行いました。この研修生受け入れは、30年以上交流のある希望の家に学園の教職員が訪問した際に、将来を担う人々を育成していく使命をお互いが果たしていくかなければ再認識し、実現したものです。日本からは本学の社会福祉学部の「国際福祉実習」の実習先として学生が3週間の実習を行っています。

また、毎年、教職員の夏期研修会での席上献金やクリスマス献金などをし、希望の家の運営に役立ててもらっています。今年1月にはブラジルでは手に入らない日本の歩行器などを贈り、また、現地では移動用リフトを購入し、利用者の介助に役立ててもらっています。

2008年1月に二人は研修を終え、ブラジルに帰国いたしました。施設に戻り、2ヶ月経ちましたお二人からメッセージが届きましたので紹介させていただきます。

Message from Brazil

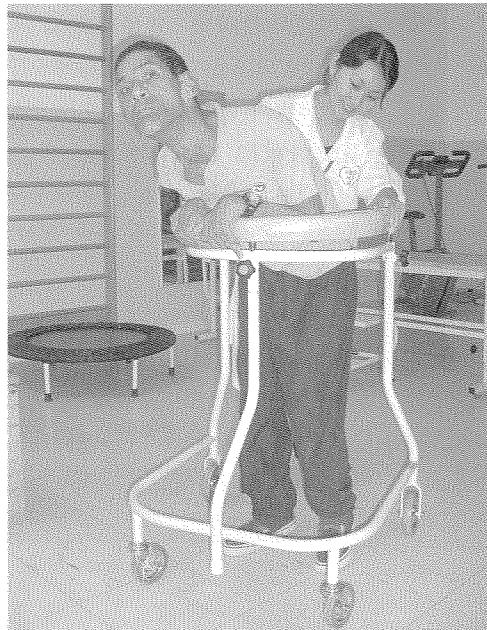
日本での研修はとてもよい勉強になりました。様々な施設において新しい介護とリハビリ方法や利用者たちの活動やサービスなどを学びました。

現在は専門の人たちと会議を行っています。その会議でいろいろなやり方、日本での研修で学んだことを討論しています。

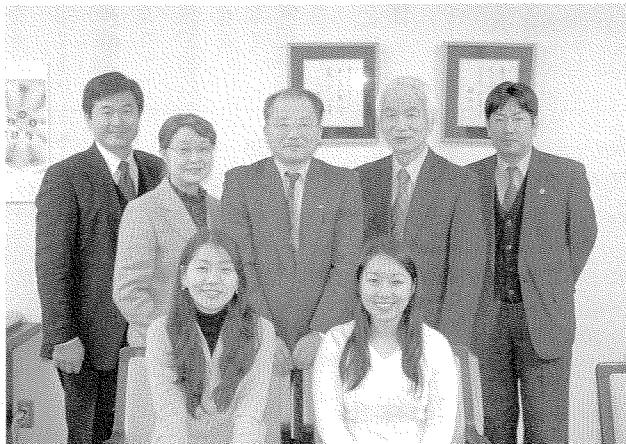
聖隸からもらった器械はリハビリにとても役に立っています。私達とブラジル希望の家は感謝しています。どうもありがとうございました。(二人より)



↑ 献金により現地で購入したリフト。



↑ 日本から贈った歩行器。



← 帰国前に学園の理事長たちと一緒に。
みえさん(左前)ちえみさん(右前)

◎日本での研修を終えてから私はもっと大勢の人たちのために助け合う気持ちが強くなりました。

希望の家では心理療法の仕事だけをしていましたが、この研修で施設全体に対する見方、例えば施設運営のやり方など大勢の人たちを知ることができましたし、そのことが大いに役立ちました。(みえさんより)

◎日本ではたくさんのこと学ばせていただきました。また、たくさんの経験を積むことができました。

人間的にも専門的にもすごく大きくなることができたと思います。そして、私が感嘆したのは日本の職員の皆様が知的身体障がい者の人たちや高齢者の人たちに対する思いやりや丁寧な介護をしていることです。これらの経験を生かして他職員とともに希望の家がよくなるように頑張りたいと思います。(ちえみさんより)

►►►►►►►►► 私学振興事業団の経営判断指標による聖隸学園の経営状態 ◄◄◄◄◄◄◄◄

15歳、18歳人口減少が続いているなど学校法人を取り巻く厳しい競争的環境によって、厳しい経営状態にある学校法人が増加しています。日本私立学校振興・共済事業団では、こうした状況を早めに察知し、余力のあるうちに適切な指導を行っていくため、学校法人の経営状態を以下の表のように7つに分類しました。これによって経営困難な状態にある学校法人が、2007年度で98法人（大学法人64、短大法人34）あることが公表されました。各学校法人では、今後この指標に基づいて経営状況を自己診断していくことになります。

本学園につきましては、A2ランクに分類されており、財務状況は正常な状態にあると言えます。この6年間で高等学校の新校舎建設、大学の学部、研究科増設により一時的に収支がマイナスでありましたが、大学に3学部3研究科が揃った2006年度よりプラスに転じており、完成年度を迎えるごと安定してきています。今後も単年度ごとの教育研究環境の改善を図るとともに、将来計画に向けた財務環境作りを行なっていきたい考えです。

(※) 収支とは学校法人会計基準上での帰属収入(学校の負債とならない収入)と消費支出(減価償却を含めた学校の経常的な支出)のことであり、その差額について述べています。

定量的な経営判断指標に基づく学校法人経営状態の区分

これは経営悪化の兆候を早期に把握するため、学校法人の経営状態をA1、A2、B0～B4の7段階に区分し、判定を行なおうとするものです。

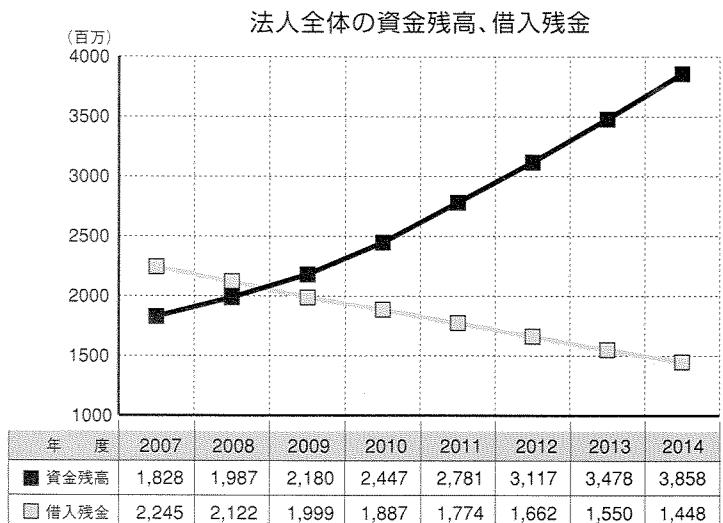
判定	経営困難状態(レッドゾーン・イエローゾーン)					小計	イエローゾーンの予備的段階		正常状態		計
	B4	B3	B2	B1			B0	A2	A1		
	おかしくない いつもぶれても	の在学中には 可能性に破綻	な蓄積資金を 黒字多 れば破綻	が過多 だが借金			のB1の一 段階の 歩手前	には更新字 に行なう 十分	黒字だが設 備を行なう 設備更新	な黒字で 更新十分が	
大学法人	9	11	38	6	64(12%)	98	200	159	521(100%)		
短大法人	6	1	22	5	34(24%)	33	47	30	144(100%)		

判定の指標: ①教育研究活動による現・預金の増減が赤字(2年連続)か、黒字か
 ②借入金等外部負債超過額を10年で返済することが可能か、不可能か
 ③帰属収支差額が赤字(2年連続)か、黒字(黒字幅が10%未満、以上)か

2008年1月21日朝日新聞より

►►►►►►►►► 2008年度から2014年度までの中長期財務計画について ◄◄◄◄◄◄◄◄

1. 聖隸学園では2009年度に中学校を開設します。その一期生が高校を卒業するのは2014年度になります。2015年度以降の学園の新規事業に備え、7年間の財務計画を策定しました。
2. この財務計画を実現できれば、法人として2014年度に保持する「資金」は、減価償却額に相当する額の貯蓄などにより38億円まで増加する見通しです。
3. 大学の各学部および高等学校においては入学者数の確保を前提に適正な教職員数を設定しています。これにより各部門における財務上の課題が明確に見えてきていますので、法人と連携して改善を図ります。
4. 今後、すべての教職員が一丸となって、各部門の目標と課題を達成することにより、7年後の財務状況が計画通りに進められ、新たな可能性を切り開いていくことができると思っています。



◆編集後記◆

昨年11月の人事異動で聖隸学園法人事務局に広報担当を新たに置き、今号から編集を担当することになりました。今後も「聖隸学園報」を通して、今まで以上に皆様に情報発信をしていきたいと思います。次号では「聖隸クリストファー

中学校」(2009年4月に開設予定)を中心に紹介していく準備を進めております。
 最後に日頃お気づきの点、聖隸学園への要望、今回の感想等お寄せいただければ幸いに存じます。(聖隸学園 広報担当)